



2011～2012年度

中津平成週報

Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2011～2012年度
国際ロータリー・テーマ

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

国際ロータリー会長
カルヤン・バネルジー

国際ロータリー2720地区 中津平成ロータリークラブ

会長 二反田新一 幹事 若松 定生 会報担当 土居 孝信 クラブ広報委員長 川崎 潤

例会日/毎週木曜日 12:30

例会場/グランプラザ中津ホテル TEL 0979-24-7111

事務局/〒871-0055 中津市殿町1383の1 中津商工会館2F

TEL 0979-22-9716 FAX 0979-22-9722

e-mail office@n-heisei.org

<http://www.n-heisei.org/>

第1056回例会 平成24年1月26日(木)

●本日の例会プログラム ゲスト卓話「黒田官兵衛の魅力第二話」
松本達雄氏

◎次回例会プログラム ゲスト卓話(仮)「児童の虐待問題について」
中津児童相談所 所長 荒木敬司氏



前回(1055回例会)の記録

平成24年1月19日(木)

■ゲスト

薦神社宮司
池永孝生氏

■出席報告

会 員 数 25名
免 除 者 数 1名
対 象 者 数 24名
本日出席者 19名
欠 席 者 数 5名
出 席 率 79.16%

■ビジター

なし

■前々回出席報告の修正

前々回欠席者 5名

メイクアップ 1名

欠 席 者 4名

修正出席率 78.26% → **82.61%**

●メイクアップ

岡野(中津中央)

●欠席者

小路・出納・松本・矢頭

◎ロータリーソング 我等の生業

◎会長の時間 会長 二反田新一

「今年の目標や今年の抱負」ということを、年の初めにはよく耳にします。テレビや新聞でも、仕事の目標、家族の幸せなど、人によって様々です。中には「貯金を増やして体重減らす」などユニークなものもありますが、みんなの目指すところは「幸せ」になること、または「人を幸せにすること」であります。

幸せを形づくるものとして、経済的余裕、健康、良好な人間関係があげられますが、どこに重きを置くかによってその人の生き方が形づくられると思います。人によって「幸せ」になるための手段としての優先順位が違ってきます。「価値観の多様化」という言葉はこのことを反映しています。

このように個人の生き方が多様化した日本社会で、国の政治は翻ろうされているように見えます。明治維新の「富国強兵」、戦後の「民主主義」と「経済最優先」、このように国民が一体となるスローガンが今はありません。

最近、五木寛之の「下山の思想」という本を読みました。(ま



だ全部読んでませんが・・・)内容は、日本は経済大国という目に見える山にすでに登頂した。登頂したからには下山するべきである。下山は登山と同じように慎重でなければならない。下山途中で命を落とした登山家は多くいる。下山したならば、まだ見えぬ次の新たな山を探し出し、計画し新しい登山を始めるべきであると書いています。

次の登山で目指す山頂が何なのか?私にもよくわかりませんが、少なくとも経済最優先ではないことは確かです。ブータン国王のように、国民に新たな山の頂上(=幸せのかたち)を指し示すことのできる政治のリーダーが現れることを期待します。

◎幹事報告 幹事 若松定生

●週報受理 中津中央RC、津久見RC、中津RC

●会報受理 中津沖代ライオンズクラブ

●幹事報告

・ガバナー事務所より長期計画についてのお尋ね

・RI理事指名委員会委員の選出について

・ロータリアン誌(英文)届く

・米山記念奨学会より寄付金納入のお知らせ





2011～2012年度

中津平成週報

Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2011～2012年度
国際ロータリー・テーマ

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

- ・中津中央RCより2月プログラム届く
- ・中津商工会議所ニュース届く
- ・中津RCより2月プログラム届く
- ・ガバナー事務所より「ガバナー月信」原稿についてのお願

●理事会報告

- ・本日、定例理事役員会を例会終了後開催します。

◎歴代会長ミニ卓話

出納皓雄会員

東日本大震災は、数多くの教訓を残しました。経営の世界でとりわけ印象深かったのは、サプライチェーンの脆さです。技術的にははたして重要視されない小さな部品でも、その供給が止まれば、製品そのものが生産できなくなってしまうものです。経済の合理性の追求は悪いことではありませんが、何事も行き過ぎると弊害がでてきます。人間社会も同じことです。表に出てくる成果だけ、目に見えるものだけで人を評価すると、かくれたところでコツコツと仕事をする人は報われません。どんな仕事もひとつひとつが独立しているわけではなく、すべて相互に依存し合っています。何一つ欠けても企業は存続できないのです。

小林一三翁は「平凡主義」を唱え、平凡な仕事に真面目に取り組む人を高く評価しました。

荒廃した地域の再生に取り組んだ二宮尊徳翁は、人々が嫌う厳しい仕事に従事する人間を、高く評価することで大きな成果を上げたことを教えています。縁の下の力持ちを正しく評価できる組織が元気になると考えます。



◎ニコニコボックス 担当：社会奉仕担当 青木秀暢会員

【宇都宮監浩会員】第1子が12月28日に無事、男子（陸基）が誕生いたしました。当会及び三火会よりお祝いをいただきありがとうございます。



【土居孝信会員】先週の新年会（1月12日）の日でありましたが、結婚記念日のお祝いの花束を自宅に届けていただきました。良い記念日となりました。ありがとうございます。

【岡野重信会員】親鸞の750回忌に熊谷門徒総代と共に本山へお参りすることができありがたいと思います。

【熊谷直輔会員】親鸞750回忌に湧く京都へ岡野会員とご一緒に親鸞の命日に当たる1月16日に750回忌のお参りをすることができました。

【出納皓雄会員】日ごろよりお世話になり仲良くさせていただいております。池永宮司、本日の卓話をお受けいただきありがとうございます。

【梶原清二会員】池永宮司、本日の卓話をよろしく願いいたします。ちなみにお兄さんと同級生で学生の頃、東京の電車の中でばったりあったことを思い出しました。

【二反田新一会長】池永宮司、本日の卓話を楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

【池永孝生宮司】本日、卓話の機会をいただきありがとうございます。

【青木秀暢会員】本日のニコニコ担当でございます。皆さんありがとうございます。

◎卓話

「明治の廃仏毀釈以降の薦神社」

薦神社 宮司 池永孝生氏

一般に「廃仏毀釈」と言えば、日本において明治維新後に成立した新政府が慶応4年3月13日（1870年4月5日）に発した大政宣布「神仏分離令」、明治3年1月3日（1870年2月3日）に出された詔書「大教宣布」などの政策によって引き起こされた、仏教施設の破壊などをさしますが、仏教俳訴や廃仏運動だけでなく神社もまとめられ地域の多くの神社が排除されました。私も中津へ帰り神社に携わってみると地域の悲観的な関係に気づき少しずつ地域のひとと直接出向いて話をするに勤めてまいりました。こうした歴史的な背景に大きく「廃仏毀釈」以後の影響を感じています。地方の自然や文化が衰退し、大和言葉など「ことば」衰退してしまっているのです。この失った文化を取り返していくことは、一つ一つ非常に骨の折れることとなるでしょう。日本の大切な文化を掘り起こしていかなければならないと感じています。（要約）

薦神社は大貞八幡宮とも称され、霊池である三角（御澄）池を内宮、社殿を外宮と仰ぐ由緒正しい八幡の古社であります。ご社殿の造営は承和年中（834～48）と伝えられていますが、歴史は遙かに溯り、八幡大神顕現にかかわる上古以来の歴史を刻むものであります。

八幡の由緒を記した『八幡宇佐宮御託宣集』によれば薦神社は古くから八幡神と深いかわりがありました。

養老4年（720）反乱を起こした日向・大隅の隼人に対し、中央政府の征討軍は八幡神を奉じて鎮圧に向かいます。この時、神輿には三角池に自生する真薦で造った枕形の御験（神を表すもの）が乗せられていたのであります。

この後も薦枕は八幡神の御験として永く用いられます。薦枕は6年毎に新しく造られ、八幡神とかかわりの深い八ヶ社（田笛社・鷹居社・瀬社・泉社・乙咩社・大根川社・妻垣社・小山田社）を巡った後に、宇佐宮本殿に納められます。古い御験は下宮に、さらに下宮の古い御験は国東東海岸の奈多宮に納められ、海に流されました。

この八幡神御験の薦枕造替にかかわる一連の神事が宇佐宮の特殊神事といわれる行幸会であります。

このように真薦の自生する三角池は『託宣集』が「豊前国下毛郡野仲の勝境の林間の宝池は大菩薩御修行の昔、湧き出でしむる水なり」と記述しているように、八幡神にとって切っても切れない極めて重要な霊池でありました。

往時の広大な森林は今ほとんど失われてしまいましたが、八幡神のご神徳により、内宮と称えられる境内の御池は今なお千数百年来の神秘をたたえ、一隅に真薦の自生がみられます。

かつて社殿とともにあった神宮寺の七堂伽藍は、大友の兵火により悉く焼亡したと伝えられますが、元和2年（1616）細川忠興公が宇佐行幸会を復興した際に、薦神社の神門等を造営して崇敬した後、小笠原氏、奥平氏と領主は代わっても、薦神社に対する篤い信仰は変わらず、今日の薦神社の元が築かれたのであります。

